

# 無加温ハウスでのハクサイダニの発生時期と 気門封鎖剤の効果

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

## 1 部門名

野菜－シュンギク、その他軟弱野菜－病害虫防除

## 2 担当者

荒川昭弘・岡崎一博

## 3 要旨

無加温ハウスで栽培されるシュンギク、コマツナなどにおいてハクサイダニの被害が問題化している。ハウス内での本種の発生時期を調査し、防除開始時期と気門封鎖剤数剤の防除効果を検討した。

(1) ハクサイダニは無加温ビニールハウス内では11月上旬から発生し、葉の被害が顕在化するのは11月中旬以降であった。

(2) 野菜類に適用のある気門封鎖剤を供試し、ハクサイダニ成虫に直接散布したところ、効果が認められた(表1)。しかし、虫体に直接薬液がかからないと十分な効果が得られないことから(表2)、供試薬剤の使用に当たっては、他害虫との同時防除を考慮しつつ、本種の発生初期(11月上旬)から虫体に薬剤が十分にかかるように留意する必要がある。

表1 ハクサイダニ成虫に対する気門封鎖剤の効果（虫体に散布）  
(2011年)

供試薬剤名（商品名）	希釈倍数	生存虫率 (%)	食害程度
脂肪酸グリセリド乳剤 (サンクリスタル乳剤)	300	0	0
プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤 (アカリタッチ乳剤)	1000	0	0
オレイン酸ナトリウム液剤 (オレート液剤)	100	0	0
無処理	100	3	

3日後の生存頭数。供試頭数は各区成虫5頭とした。2回復。

薬剤は上部より十分量スプレー処理した。容器はメッシュでふたをし、10°Cで保護した。  
食害程度を3:50%以上、2:25~50%、1:1~25%、0:食害無しとして評価した。

表2 ハクサイダニ成虫に対する気門封鎖剤の効果（植物体に散布）  
(2011年)

供試薬剤名（商品名）	希釈倍数	生存虫率 (%)	食害程度
脂肪酸グリセリド乳剤 (サンクリスタル乳剤)	300	20	0
プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤 (アカリタッチ乳剤)	1000	30	1
オレイン酸ナトリウム液剤 (オレート液剤)	100	30	1
デンブン液剤 (粘着くん液剤)	100	100	1
無処理	100	3	

3日後の生存頭数。供試頭数は各区成虫5頭とした。2回復。

ハクサイリーフディスクを葉液に浸漬後、風乾した。

容器はメッシュでふたをし、10°Cで保護した。

食害程度を3:50%以上、2:25~50%、1:1~25%、0:食害無しとして評価した。



写真1 ハクサイダニ成虫



写真2 ハクサイダニによる被害葉

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 新奇・難防除病害虫の効率的防除技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度センター試験成績概要